

正誤訂正表

建築構造物の動的性状と解析 (第1版第1刷) 正誤訂正表 (2017/1/24)

建築構造物の動的性状と解析 (第1版第1刷) 正誤訂正表 (2017/9/25)

頁	行	誤	正
はじめに	上 2	「家屋耐震並台風構造」	「家屋耐震並耐風構造」
33	式 2.2.3	$\theta_{ij} = \theta_{ZGi}$	$\theta_{Zij} = \theta_{ZGi}$
33	式 2.2.6	$M_{ZGi} = \sum_{j=1}^{ni} \{ -(Y_{ij} - Y_{Gi}) F_{Xij} + (X_{ij} - X_{Gi}) F_{Yij} + M_{Zij} \}$	$M_{\theta_{ZGi}} = \sum_{j=1}^{ni} \{ -(Y_{ij} - Y_{Gi}) F_{Xij} + (X_{ij} - X_{Gi}) F_{Yij} + M_{\theta_{Zij}} \}$
33	図 2.2.6		
33	図 2.2.7		
54	図 3.2.2	粘性減衰	粘性減衰 C_{ij}
87	下 9	XG : 地動変位 (m)	XG : 地動変位 (m)
135	上 15~17	(ii)柱の曲げ耐力 (鋼管柱) $\frac{N}{N_y} \leq 0.2$ のとき $M_{PC} = M_{P0}$ $\frac{N}{N_y} > 0.2$ のとき $M_{PC} = 1.25 \times \left(1 - \frac{N}{N_y}\right) \cdot M_{P0}$	(ii)柱の曲げ耐力 (角型鋼管柱) $\frac{N}{N_y} \leq \frac{A_w}{2A}$ のとき $M_{PC} = M_{P0}$ $\frac{N}{N_y} > \frac{A_w}{2A}$ のとき $M_{PC} = 1.14 \times \left(1 - \frac{N}{N_y}\right) \cdot M_{P0}$
136	上 3	最大塑性率を示す.	最大塑性率 (部材の最大変形/弾性限変形) を示す.
153	表 7.8.1	K (層) / (P/H)	(P/H) / K (層)
159	上 8	頂部水平変形時刻歴および頂部最大加速度について, 両者の比較を示す.	頂部水平変形時刻歴および頂部最大加速度について, 図 7.9.5 に両者の比較を示す.

188	下 8	圧縮耐力と引張り耐力 (k N)	等価剛性(k N/mm)
217	上 6	減衰 D1 のモデルである。	減衰 D3 のモデルである。
230	下 9	中央たわみ δ	先端たわみ δ
240	付図 5.2.2	${}_1\beta \cdot \ddot{x}_G(t)$ ${}_2\beta \cdot \ddot{x}_G(t)$ ${}_3\beta \cdot \ddot{x}_G(t)$	$\ddot{x}_G(t)$ $\ddot{x}_G(t)$ $\ddot{x}_G(t)$